

生化学検査 新規受託のご案内

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

さてこの度、日本臨床化学会よりアルカリホスファターゼ(ALP)と乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)の測定法について2020年4月から現在のJSCC法からIFCC法へ変更するとの発表がありました。(変更に伴う猶予期間を1年としています。) 弊社対応と致しまして、IFCC法での新規受託を開始いたしますので、ご案内申し上げます。

なお、現行のJSCC法は1年間に限り受託を継続いたしますが、2021年3月31日(水)受付分をもちまして検査の受託中止を予定しております。

今後とも変わらぬご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

敬 白

記

《新規受託検査項目》

検査項目名称	ALP/IFCC	LD/IFCC
検査コード	0716	0717
検体量	血清 0.3mL	血清 0.3mL
保存条件	冷蔵	冷蔵
採取容器	A	A
単位	U/L	U/L
検査方法	IFCC法(比色法)	IFCC法(UV法)
基準範囲	38~113U/L	120~245U/L

《受託開始日》 2020年4月1日(水) 受付分より

< IFCC法への変更に関して(日本臨床化学会資料より) >

① ALP/IFCC法

- ・ 現行のJSCC法に比べ測定値が1/3程度の数値になります。
- ・ IFCC法とJSCC法ではALPのアイソザイムへの反応性に差異がありますので、換算には限界があります。

例えば血液型B、O型では小腸型ALPを含む検体で低めになり、逆に妊婦では胎盤型ALPが増加することにより高めに測定されます。

- ・ アイソザイムに対する反応性に差異がありますが、ALP活性がほぼ肝型と骨型の検体と仮定した場合の換算係数は以下の換算係数が示されています。

JSCC法値からIFCC法値への換算：0.35倍

IFCC法値からJSCC法値への換算：2.84倍

② LD/IFCC法

- ・ 現行のJSCC法の測定値との差は軽微であり、健常者の測定値では許容誤差範囲内の変化であることから、基準値に変更はありません。
- ・ LD5優位検体ではJSCC法に対して低めの活性になります。(LD5が50%の症例では測定値の差は20%未満です。)
- ・ 各疾患でのIFCC法値については次の内容が示されています。
心疾患・・・LD1およびLD2が優位であり、JSCC法より若干高値傾向。
血液疾患・・・LD2およびLD3が優位となるが、JSCC法と比較して許容誤差範囲内。
肝疾患・・・LD5が優位となるため、JSCC法より10～20%低値傾向。

< 相関図 >

